



市場区分の見直しに関する フォローアップ会議 第八回 東証説明資料②

Exchange & beyond

株式会社東京証券取引所 上場部

2023年2月15日

資本コストや株価を意識した経営の促進に向けた要請

- 資本コストや株価を意識した経営の促進に向けて、プライム市場・スタンダード市場の全社に対して、以下の内容を要請する想定（2023年春に通知予定）

※ 特にPBRが1倍を割れている場合には、市況の悪化など一時的な影響によるものである場合を除き、十分な対応が求められる旨を通知に明記

資本コストや株価を意識した経営の促進に向けた要請の内容（案）

現状分析

- 自社の資本コストや資本収益性（ROE、ROIC等）を的確に把握
- その内容や市場評価（株価・時価総額、PBR、PER等）に関して、取締役会等で現状を分析・評価

（分析・評価の観点の例）

- 資本コストを上回る資本収益性を達成できているか、達成できていない場合には、その要因
- 資本コストを上回る資本収益性を達成できているも、PBRが1倍を割れているなど、十分な市場評価を得られていない場合には、その要因 など

計画策定・開示

- 資本収益性や市場評価に関して、改善に向けた方針や目標・計画期間、具体的な取組について検討・策定
- その内容について、現状評価とあわせて、投資者にわかりやすく開示

- 目標とする指標は、自社の状況を踏まえて設定
- 既に十分な水準が実現しており、改善の必要がないと考える場合には、その旨を開示
- 東証から新たに提供するフォーマットを利用した開示のほか、CGコード原則5-2の趣旨を踏まえ、経営戦略や経営計画を開示する中で示すことも可（いずれの場合でも、開示を行っている旨について、CG報告書に記載）

取組の実行

- 計画に基づき、資本コストや株価を意識した経営を推進

- 開示をベースとして、投資者との積極的な対話を実施

毎年（年1回以上）、進捗状況に関する分析を行い、開示をアップデート

コーポレートガバナンス・コード（2021年6月改訂版）

【原則5-2. 経営戦略や経営計画の策定・公表】

経営戦略や経営計画の策定・公表に当たっては、**自社の資本コストを的確に把握した上で、収益計画や資本政策の基本的な方針を示すとともに、収益力・資本効率等に関する目標を提示し、その実現のために、事業ポートフォリオの見直しや、設備投資・研究開発投資・人的資本への投資等を含む経営資源の配分等に関し具体的に何を実行するのかについて、株主に分かりやすい言葉・論理で明確に説明を行うべきである。**

補充原則5-2①

上場会社は、経営戦略等の策定・公表に当たっては、取締役会において決定された事業ポートフォリオに関する基本的な方針や事業ポートフォリオの見直しの状況について分かりやすく示すべきである。

投資家と企業の対話ガイドライン（2021年6月改訂版）

1. 経営環境の変化に対応した経営判断

1-2. **経営陣が、自社の事業のリスクなどを適切に反映した資本コストを的確に把握しているか。その上で、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、収益力・資本効率等に関する目標を設定し、資本コストを意識した経営が行われているか。また、こうした目標を設定した理由が分かりやすく説明されているか。中長期的に資本コストに見合うリターンを上げているか。**

1-4. **経営戦略・経営計画等の下、事業を取り巻く経営環境や事業等のリスクを的確に把握し、より成長性の高い新規事業への投資や既存事業からの撤退・売却を含む事業ポートフォリオの組替えなど、果敢な経営判断が行われているか。その際、事業ポートフォリオの見直しについて、その方針が明確に定められ、見直しのプロセスが実効的なものとして機能しているか。**